

世界の幼児保育者との協力

——イスラエルで開かれたOMEPE

(世界幼児教育機構) 世界大会に参加して——

津 守 真

会場のラロムホテルのロビーで、一日のスケジュールのあと、疲れをいやしながら、シュースをのんではいるととき、わざに坐っていた若い参加者と話をすることになった。二人はイスの人で、他の二人はアルゼンチンからきたということだった。イスの女性は、保育園の先生で、朝六時から夕方六時まで子どもをあずかるのだという。もちろん、大人の方は時間交代で、一週四十二時間制である。アルゼンチンの若い女性は幼稚園の先生で、

ひとりはスペイン語しか話せず、もうひとりの人がたどたどしい英語で通訳しながら会話をする。田舎の方にゆくと、一クラス六十人もいる学校があるという。妻と私と、ゆっくりと話しながら、この大会は、現場の保育をしている人たちが集まつてきることを実感した。この若い人たちには、自分たちはこの高級ホテルには泊れないのだといって、夜遅くなつてから外に出ていった。

会場のホテルの朝食では、OMEPEの幹部の人たちと

顔を合わせる機会がある。野菜とチーズと果物を好きな

ように取りながら、豊かな朝食がはじまる。ある朝、一緒にになったノールウェーのバルク女史は、百歳になる母親がいるという。こうして人間の一生を見ると、子どもには、子ども時代を生きる権利があることがはつきりとわかりますねと語る。バルク女史の提案で、世界各国の

幼児の保育と教育の現状についての詳細な資料の蒐集が

はじめられている。日本のOMEП国内委員会でも、昨年、加藤定夫氏の尽力でこれに回答をした。まだ十数カ

国からしか集まっていない。女史は、私の顔を見るとす

ぐにこの回答の礼を言われ、身近な話がはじまつたの

である。客観的なレポートの集成の背景には、

幼児期の遊びをいたせつにすることに

とどまらず、人間の子ども時

代を生きる権利がそ

こなわれることがない

ように静かな戦いをして

いる情熱が感じられた。

世界理事会

OMEП（世界幼児教育機構）の第十八回世界大会は三年に一度開催されるが、今回は七月十三日から十七日まで、イスラエルの首都、エルサレムで開かれた。それに先立つて、七月十日から二日間と、大会終了後の十八

*Fleurs de la Terre Sainte
Fleurs de la Terre Sainte
Fleurs de la Terre Sainte
Fleurs de la Terre Sainte*

イスラエルの押し花

日に、世界理事会が行われた。私は、OMEПの世界大会に参加するのは、今回が最初であるのに、この二年間余、日本の国内委員会の世話をしてきたので、理事会に出席することになったのである。土山牧羔、石垣恵美子両氏と最終日には大戸美也子氏が陪席された。

理事会では、円く囲まれたテーブルに、参加六十数カ国のかなな国旗が置かれ、一国一票の投票権をもつ。世界総裁のグタール女史の司会のもとに、簡潔に意見がたたかわされながら進められる。重要なことは、その都度、挙手による採決をしながら、賛成、反対、保留の数をかぞえてゆく。役員の選挙は無記名投票である。言語は、英語、フランス語、スペイン語で、同時通訳がなされる。

今回の理事会で、インドが正式に加盟が承認され、タイとシンガポールが、準備委員会を作ることが承認された。また、グタール総裁は、二期満了し、規約により改選され、バルク女史が次期総裁に選出された。グタール女史は、今後、ユネスコ連絡委員として活躍される。三

日間にわたる理事会の議事は、きわめて多いので、次に、私にとって関心の深いことを二・三のべたいと思う。

第十七回ジュネーブ大会の決議について

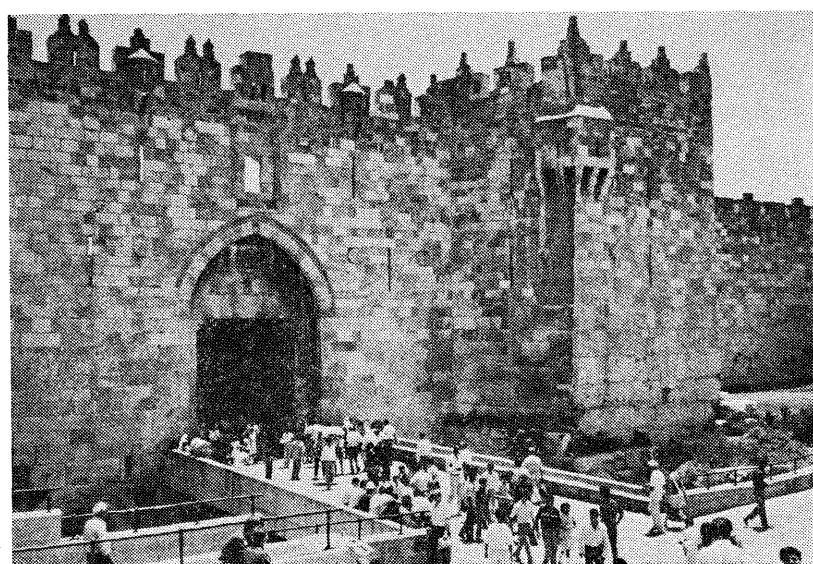
前回のジュネーブ大会では、次のことが決議されており、その後の各國の実行状況について、各地域（世界が七つの地域に分れ、アジア地域は、従来、オーストラリアと日本のみである。クレッグ女史がこの地域の代表者である）からとりまとめて報告があつた。決議は大略、次の通りである。1 発達途上国の子どもの栄養失調の深刻な現状について、適切な方策を促進させること。OMEПは国内委員会を通して各方面にはたらきかけ、それを次期大会に報告すること。2 先進国の幼児教育のモデルを、無批判に発達途上国に移入しないこと。各國の文化伝統等が尊重されねばならない。3 子どもの保育の機会の均等について 4 暴力と戦争を阻止し、子どもの未来に対する希望を拡大すること。5 子どもの

権利宣言（国連）の推進。

いやれめりに詳述するいふのやきない大きな問題であるが、世界の各国は、それぞれの可能な範囲で、これがの問題に关心を寄せ、協力しようとしている。

保育の実践者にとっては、子どもと共に過す小さな時間と空間が大切なことで、世界という大きな舞台にまで眼がひらがりにくい。しかし、小さなことを大切にするこどを世界中の保育者が確認することもまた、世界的な規模で必要とされる時代になつてゐる。そうでないと、保育実践者の頭上をいえて、大雑把なプログラムが支配するひとになりかねない。こういう点で、日本でも、皆で交代しあつて、世界機構に協力していくことは重要であると思う。

平和教育の問題について、昨年、OMEP総裁グタール女史がヨネベニア出版物として、“Seeds For Peace——The Role of Preschool Education in International Understanding and Education for Peace”(平和のための種子)——国際理解と平和教育における幼児教育の役



ダマスカ門

割」を書かれた。子どものときに、幸福で平和な体験をすることがなかつたら、大人になって、他人の幸福と平和のために戦う人間となることはできないだろう。平和のための教育は、家庭、幼稚園、保育所の毎日の保育そのものである。この出版物は、こうした趣旨で貫かれている。この中に、いろいろの国の保育の実際が言及されているが、日本についての記事は「日本製の精巧なタンクの玩具」のことだけである。ちなみに、スウェーデン政府は、一九七九年一月八日に、戦争玩具を禁止しているし、EC（ヨーロッパ連合体）は、一九八二年に武器玩具を禁止している。平和教育というと、特別な運動に参加することという考え方もあるが、ここで考えられていることは、もっと日常の身近な生活の中で葛藤を平和的に解決すること、生活の中で平和の体験をすることである。

教育と保育の用語について

地域分科会でジュネーブ決議について項目ごとに検討

していたとき、私は、教育と保育は分ち難く、両者を含む概念が必要であることを述べたところ、いろいろの人々が直ちに関心を示した。排泄、食事、衣服の世話の中に教育があるし、教えることだけを切り離してとり上げることは幼児期には困難である。またこの両者を分離して行政的な制度とすることにも無理がある。最近OME^Pで使いはじめている、e.c.c.e (early childhood care and education) というのは、ひとまとまりの単語になっている。日本語の「保育」という語は、これに対応する単語ともいえる。しかし、care-and-education とすると、教育から養護の機能を排除する」とを承認する恐れもある。こうした議論が相互に交わされた後、オーストラリアの委員は、これをわれわれの地域の提案として理事会に提出しようという。早速、その次のセッションの最中に、規約の用語改訂の案として、私にメモが回された。しかし、これにはまだ多くの議論が残されていりし、両方の国内委員会で合意した上で共同の提案となるので、今後、積極的に研究し、情報交換をして、次の

世界大会に提案することになった。こうしたこまかい点の打合せは、かなりたっぷりとられた休憩のお茶の時間になされる。理事会は朝八時半に始まり、夕方六時までつづく。日本人は勤勉だといわれるが、会合に関しては、西欧の方々が勤勉であるように思われた。

理事会が終った金曜日の夕方から、イスラエルはサバト（安息日）にはいる。すべての公的活動は停止され、バスやタクシーも動かなくなる。これまでくつろいだ服装で働いていた人たちが、白いスーツにネクタイをしめ、少年や青年も正装して、家族そろって誇らしげにシナゴーグ（ユダヤ教会堂）にゆく。建国間もないイスラエルの人々の気概と緊張感を感じさせられる。空港の税関では、極めて厳しい検査と訊問があるか、ひとたび国内にはいると、秩序ある清潔で健康な社会という印象を受ける。石造りの近代的建造物には、モダンな彫刻が施されており、装飾的ヘブライ文字に見るよう、芸術が人々に評価されているように思われた。



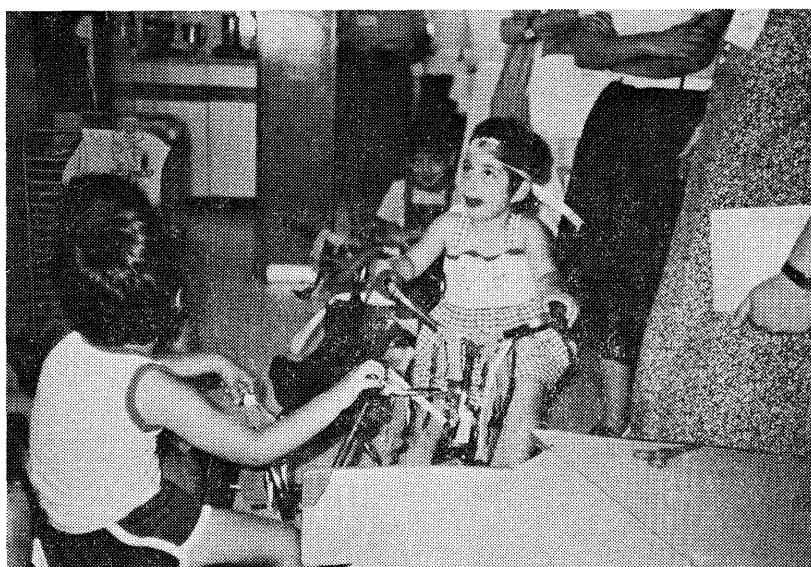
三千年前の発掘現場

サバトが終る土曜の晩から、新市街のショッピング通りは、再び若者たちで賑わう。その翌日から、次のサバトまでの期間に行われた世界大会には、日本からも三十

数名の方々が加わった。

エルサレム

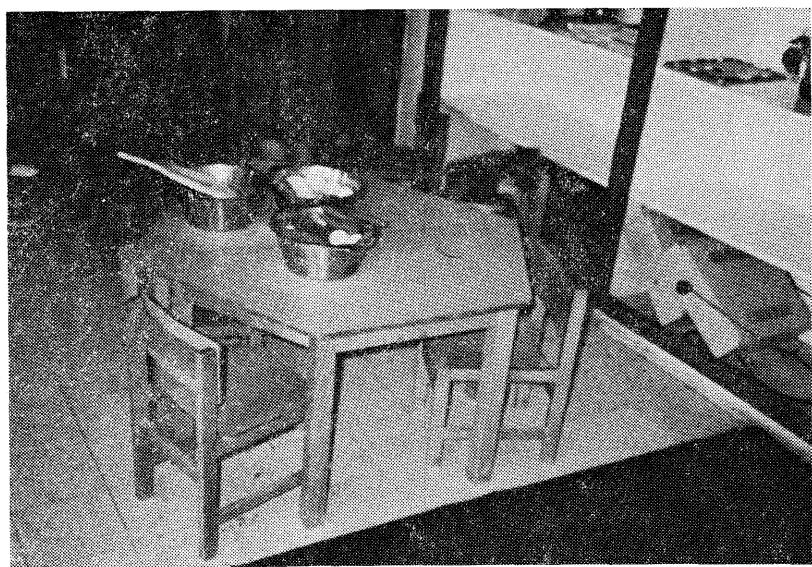
この特別な町で、ということが会期中に何度もいろいろの人から言われたが、今回の世界大会の開かれたエルサレムは、世界中に類のない特別な町であった。近代的な新市街とは別に、堅固な城壁に囲まれた旧エルサレムは、二千年前からこのようだったのではないかと思わされた。ユダヤ、アラブ、アルメニア、キリスト教の四つの居住地があるが、旅行者には区別がつかない程、全体がバザールの混雑の中にある。小さな土産物屋、宝飾商店、野菜果物の市場、金工、革工具店、香料の匂い、石畳みと石のアーチのつづく露路、路の両側の石壁の内に迷路のように連なる住居。その中にペテロの閉じこめられた牢獄があり、また、数知れない教会がキリストの歩



んだ遺跡の上に建てられている。城壁の四周には、ヘロデ門、ダマスコ門、ヨッパ門、シオン門、糞の門、美麗門、ステパン門がある。最後の二つを除いて、あとの門の入口は、人々の雜踏で賑い、両替屋がある。紀元七〇年に、エルサレムはローマによつて破壊されたが、その後、トルコ、十字軍、最近はシリアとの戦争などにより、何度も破壊と再建がくり返された。二千年を通じて、怨念と抗争が塗りこめられ、しかもそこがイエスの生涯の最後の地であるという不思議な町である。

大会の十日間のエルサレム滞在中、夜になると、ホテルから谷をひとつ隔てたエルサレムの城壁を眺めた。その内部に、あの喧騒と幾多の歴史が渦巻いていることを想像するのは困難なほど、壯麗な城壁は夜空に静かに浮び上っていた。

大会が終つてから二日間、日本の旅行團と一緒に、ベツレヘム、ラケルの墓、ベエルシバ、死海、マサダ、クムラン、エリコ、ナザレ、ガリラヤと旅をして回ることができたのは幸いであつた。ゆけどもつづくネゲブの砂



漠の果てにあるペエルシバでバスをおりたときには、日本では経験することのない熱風を知った。聖書にあらわれる土地は、人間の生存にとって苛酷な自然の中にある。けれども、ガリラヤ湖畔だけは、緑と涼風の吹く快い場所であった。イエスはここを好まれたことを思つて、安堵感を覚えた。

この地から人類の偉大な精神が生れたことを思うとき、この町は特別な町である。しかし、精神は具体的な空間と時間の制約をはなれて生きる。固有の伝統的文化は尊重されねばならないが、人類に共有されうる精神を内に含まなければ、その文化は抗争の因をつくるのであろう。

実にこの町は、いろいろの矛盾をはらんだ特別な町であった。帰国してしばらくたつても、その熱気が身体からはなれない。



子どもたち

イスラエルの飛行機の中で、すでに子どもたちは賑やかである。新市街には公園も多く、至るところで子どもたちの笑い声がきこえる。ユダヤ教の戒律には厳しいものがあるが、その中に子どもを大切にする伝統があるようだ。イスラエル博物館には児童館があり、多勢の子どもが博物館で遊んでいる。

新市街に住む現代のイスラエル人は、まだ独立したばかりのこの国の建国の理想に向って前進する人々である。

大会で用意された施設訪問の中に、新興住宅地につくられた児童館の夏期保育があった。ここでは、二十人ほどの三、四才児が室内で三輪車にのったり、ブロックをしたり、思い思いに遊んでいる。ひとつ前のテーブルにおやつの野菜サラダを作る準備がしてあり、一緒にいたヨーロッペの年輩の婦人保育者たちは、すぐにそこに坐って果物の皮をむきはじめる。私は子どもの中に坐つて積木を手渡したりしていると、間もなく私の肩によじ



エルサレム旧市内にて

上ったり、頭に飾りをつけてくれる子どもがあらわれる。

いつのまにか、数人の子どもたちが私のまわりで遊びはじめる。日本の幼稚園にいったときとかわらない。

保育をしている若い婦人は、十四年前にロシアから移民してきたのだという。子どもたちとの会話は、ヘブライ語である。日本からは遙かに遠い国、ロシアのユダヤ人でも、子どもを生かす保育をする人を見出して心強く思った。

エルサレムの城壁の中の旧市内にゆくと新市街とは全く違った光景がある。

バザールの雑踏の中で、一シケルで絵はがきの束を買つてくれと少年が追いかけてくる。土産物店の前で立止ると、子どもが次々に品物を見せる。子どもたちはこういう労働によつて大人の社会に直接に参加している。かららずしも不幸とはいえない表情であった。だが、子どもの独自の世界をそこに見出すことはむつかしい。そう思うのは、暑い日射の中を疲れて足をひきする旅行者

エルサレム旧市内にて 2



の、余裕のない眼のせいかもしない。比較的静かな石

次回の世界大会は三年後にロンドンで開かれる。

畳の、住居と思われる石の側壁から出てきた子どもたち

が、三輪車をひっくりかえし、車輪を回して遊ぶ姿に出会ったとき、この中にもさまざまな生活があることに気が付かされた。

(愛育養護学校)

今回の大会で、私は「子どもの世界の理解」と題して、実践と省察の循環反復によって保育が成立し、そこに子どもの世界が生み出され、保育者の成長もまたそこにあることをのべ、倉橋惣三の保育論を紹介した。私の話の中に障害をもつ子どもが登場した故であろうか。そのあと何人もの方々が、自分も障害をもつ子どもの保育をしていると話しにこられた。

障害をもつ子どもの保育も、普通の子どもの保育も、いずれも子ども時代をたいせつにし、遊びを中心とすることにおいて、かわりはない。同じように考える人たちが世界中にいるのを知ったことは収穫であった。